

FEAST II 釜山航海2007

Rev. A

■参加予定メンバー

船長：Iさん 以下クルー

Nさん (船長の友人)

Yさん

Oさん

YMさん (ナビゲーションソフトの開発者)

(私) (今回の航海をマネジメントさせていただきます。)

合計 6名

Yさんは、釜山着後に高速船で帰国予定です。

■参加費用

1名 4万円 (燃料代、釜山での停泊料、福岡での停泊料の一部、船内食費が含まれます。)

釜山での滞在中に発生する費用は各自負担です。 ※1/2 航程参加は、半額

■予定航程 ※所要時間は、毎時7NMで計算。

8月10日(金) 昼より福岡市小戸ヨットハーバーに集合可能な方は、給油作業のお手伝いをお願いします。

※夜までに集合

8月11日(土)

0400 小戸ヨットハーバーを出港 対馬巖原港へ約62NM

1300 対馬巖原港 入港

●各自出国手続きおよび、FEAST2の通関手続き

●食料品調達(福岡帰着までの)

★検疫へ入港通報のコピーを渡す。

★保安部へ帰りの入港通報を渡す。

1500 対馬巖原港 出港 浅茅湾へ約16NM ・万関瀬戸経由

1800 浅茅湾投錨(入管的には、ダメ)

8月12日(日)

0600 浅茅湾 抜錨 釜山港へ 約50NM

1200 釜山港 釜山オリンピックヨットハーバー入港

1300 入国手続き、通関手続きのため移動 ※8/14の開庁時刻を確認
手続き完了後、自由行動

8月13日(月) 終日自由行動

午後のできるだけ遅い時間で韓国入管、税関の開庁時刻に合わせて出国手続

※日本側関係部署へ入港通報をFAXする

8月14日(火)

0400 釜山港 釜山オリンピックヨットハーバー出港 浅茅湾まで約50NM

1100 浅茅湾投錨 (入管的には、ダメ)

1500 浅茅湾抜錨 厳原港へ 約15NM

1500~ 厳原港 入港 入国手続きおよびFEAST II通関手続き

1600 厳原港泊

8月14日(火)

0600 厳原港 出港

1500 福岡市小戸ヨットハーバー入港

船固め後、解散。

■回航

●月●日

0000 福岡市小戸ヨットハーバー出港

■各自用意するもの

- ・現地通貨 韓国ウォン
- ・パスポート
- ・各自必要なもの。(クレジットカード?なども)

●万関瀬戸

運河とは、公共的交通の用に供するために築造された人工的水路である。「運河論」によれば、伊達正宗が慶長 6 年（1601）に造った貞山運河が日本最古級だが、これは築城のさいの材料運搬用であったという。対馬 21 代藩主宗義真が寛文 12 年（1672）に開かせた大船越瀬戸（美津島町）は、この本のランキングに当てはめるなら 2 番目に古い。

朝鮮海峡に口を開いた浅海湾から、東の日本海に通ずる瀬戸・大船越は、浅海湾の水が奥深く湾入した細い地峡で、昔は、ここを船を引いて越した。だから「船越」である。

島民の長い間の願いであった大船越瀬戸の開削にはのべ 35,000 人が従事。のち拡張され、最終的に長さ 242 メートル、幅 49 メートルになった。瀬戸の開通で東へも西へも出漁できるようになった。船が集まり集落も広がった。

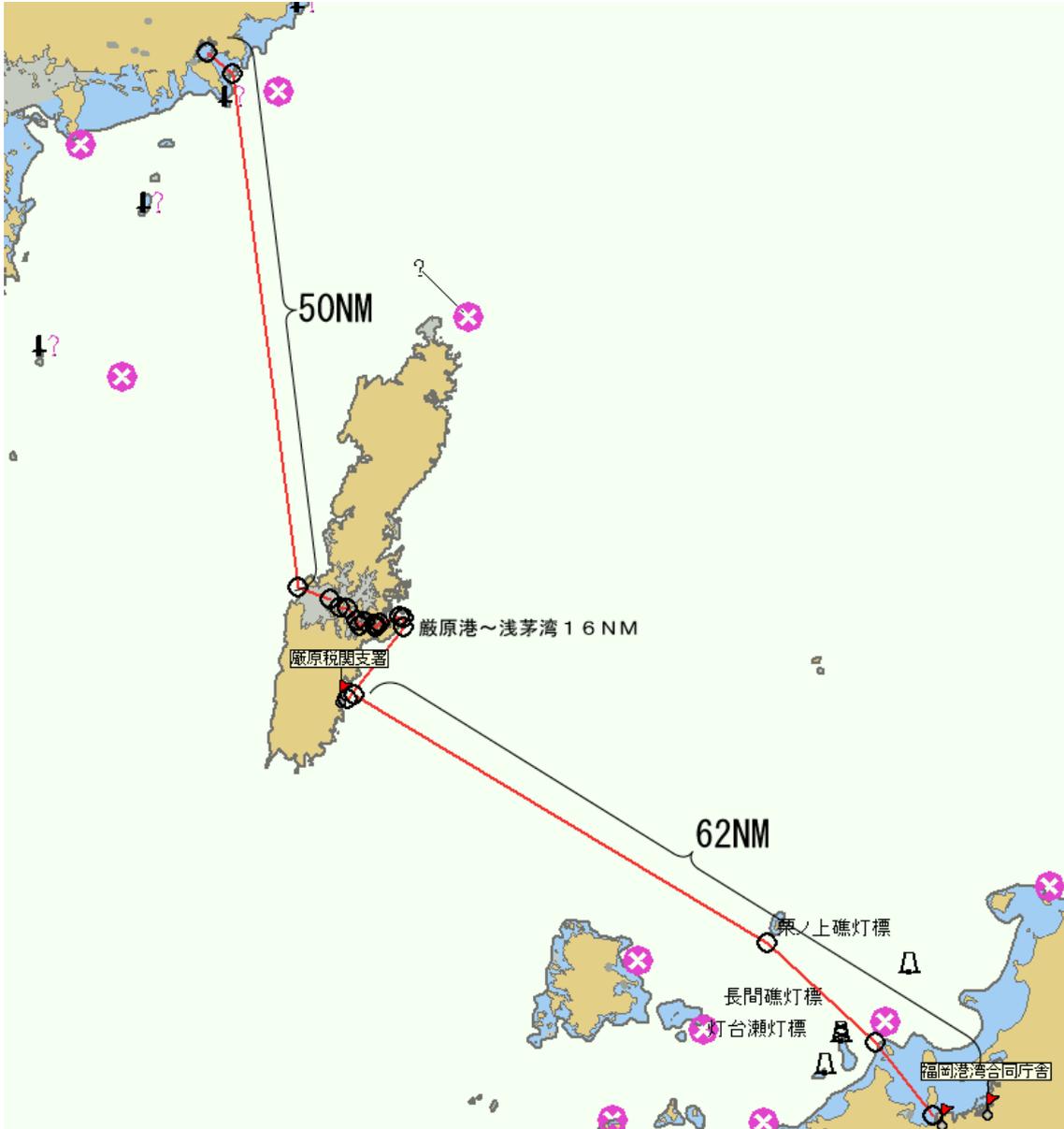
明治に入って、浅海湾の竹敷浦に海軍要港部が置かれ、大小の艦艇が出入りするようになったが、大船越の瀬戸は浅く、これらの艦船を通すことができない。そこで海軍は明治 33 年（1900）、大船越の北約 2 キロに、浅海湾の万関浦と対馬海峡側の久須保浦との間の地峡を掘り割って大きな運河を開いた。すなわち幅 25 メートル、水深 3 メートルの万関瀬戸で、のちに幅 40 メートル、水深 4.5 メートルに拡張された。

日露戦争では、水雷艇はここを通過して出撃した。一般の船も通ることを許されたから、島民の暮らしに大きな利便をもたらした。「50 年の間多くの軍事費をつぎ込んだ対馬要塞が、島民に与えた恩恵はこれと道路だけではなかったか」（永留久恵）といわれるほどである。

万関瀬戸には万関橋が架かり、島の大動脈となった。2 代目は昭和 31 年（1956）、3 代目万関橋は平成 8 年（1996）にできた。



■福岡～釜山ルート



■福岡市立小戸ヨットハーバー アクセス



地下鉄姪浜駅から

徒歩 25 分

タクシー約 5 分

都市高速道路

百道ランプから車で約 10 分

船長の韓国内での携帯電話

002-81-09-***-*****